

「第7回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が開催

11月11日(木)午後2時30分から「第7回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が大
阪駅前第3ビル19階の「中小機構プラザ UMEDA」にて開催されました。

この日は、北は福井県福井市、南は和歌山県田辺市など近畿一円の中心市街地活性化に係わる16
の市から行政、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、商工会議所の担当者が、また今回は100
円商店街のすすめという講演テーマから他に商店街関係者も参加されました。他には近畿経済産業局
並びに中小企業基盤整備機構近畿支部などからの関係者49名が参加され開催されました。

この研究会も第7回を迎え、これまではネットワー
ク研究会各開催地の関係者による歓迎挨拶がなされて
きましたが、今回は開催場所が中小企業基盤整備機構
経営支援プラザ UMEDA での開催ということで冒頭、
当ネットワーク研究会の副会長でもあり、当奈良市中
心市街地活性化協議会事務局長である木野本氏より、
本年奈良で開催された平城遷都 1300 年祭メイン会
場である平城宮跡会場来場者が当初予想来場者数を大
きく上回った話をされ、今回の研究会参加者に報告と
御礼を述べました。



その後、「OSAKA 旅めがね」プロデューサーの泉
英明氏より街歩きツアーのすすめ！～「OSAKA 旅め
がね」の事例に学ぶ～をテーマにご説明を伺いました。
「OSAKA 旅めがね」とは、水都 2009「クルーズ&

ウォーク」をプログラムとしてスタートし終了後も独
自採算で継続、リアルな大阪、水都大阪の魅力、人の
魅力を体感しながら地元案内人とゆくほんまもの大
阪ツアーとのことです。



「OSAKA 旅めがね」のプログラムは、毎週土・日催
行され定期プログラムと不定期プレミアムプログラム
がありプロの案内人「エリアクルー」と全14エリア
+プレミアムをクルーズする、また逸品を味わいなが
ら地元の人と話し歩く。約2時間のプログラム時間で
参加費は3,480円からとなっていて、ツアー事業の
流れとしては、地域のお宝さがし、プログラムのテー
マ・ストーリーづくり、案内人の育成、商品詳細決定、
案内人の配置、販売、チラシ配布、プレスリリース等
のPR、お店などの関係者の手配、そしてプログラムの
実施、精算、次回への改善点、継続性などとなって
いるそうです。

泉さんは、人口減少、少子高齢化などまちの抱える色々な問題検証から、これからのまちづくりは、地域コミュニティの再編、地域資源の再認識、郷土愛の育成、ハードよりソフトの工夫などから個人から団体へ、参加型体験、来訪者と地域との関係変化、施設内完結型から街並みや生活に密着したオープンエリアの体験といった地域密着型観光が相互作用することで、まちづくりと観光の良い関係が成り立つとおっしゃっておられました。



引き続き～「OSAKA 旅めがね」の現場に学ぶ～をテーマにエリアクルーの古川章子氏よりお話をお聞きました。なぜエリアクルーに入られたかと言うと古川さんは大阪東成区出身の東成区在住で、大正という自分の育った街の水辺のイメージが、自分にフィットしたからということで、エリアクルーをしていて何が楽しいかという、街の水辺のバーを見つけたり新しい街の発見、お客さんを通して街の人も変化しているのが楽しいと。またクルーとして改善したいことは、ガイドとしてのスキルアップをしていきたい、自分を見て私もやってみようという人が増えればベストかなあと。また古川さん個人としては案内できるエリアを増やし、大阪市全部を自分のポジションにしたいと思っていますと述べておられました。

続いてテーマ 100 円商店街のすすめ～事業者をやる気にさせる 100 円商店街の取組みとその極意について NPO-AMP（山形県新庄市役所）の齋藤一成氏からのご説明をお聞きました。

100 円商店街は、近畿では 2 年前に奈良県生駒市の生駒駅前商店街さんが、最近では兵庫県の伊丹市さん、大阪府の守口市さん、同じく大阪府箕面市さんなど全国で 2010 年 11 月 6 日現在 53 ヶ所の商店街で取組みられ年内には 59 ヶ所で取組みられるとお話でした。

齋藤さんが山形県新庄市で取組みをおこなわれた時は、最初 2 年間はうまく起動しなかったとのことでした。しかし 2006 年経済産業省中小企業庁の「がんばる商店街 77 選」に選ばれたのをきっ掛けに全国で取組みられるようになり、今日では大阪商工会議所さんの積極的な支援などにより 20 日に 1 ヶ所のペースで 100 円商店街が新たに開催されていますとのことでした。齋藤さんは、100 円商店街は目的ではなく、あくまでも道具ですよと、理解したうえでおこなわないと失敗すると。この事業は山形県新庄市という人口 4 万人といった地方発の事業で、イベントによってただ人を集めても売上には反映しない、しかし 100 円商店街は 100 円玉の魔法によって、100 円は財布の紐がゆるむ金額、100 円ショップはダイソーなど全国に展開していますがほとんど返品が発生していないと。形としてはバルも 100 円商店街に近いが違いとしてはバルは飲食業だけが対象だが、100 円商店街は商店街の全業種が対象に。まず始めに考えることは、お客さんの目線、お金を使わないでおこなえる、無理しておこなって欲しくはないとおっしゃっていました。100 円の商品をなぜ店の外に置くのか、まずお客はいきなり店の中には入り難い。外で選んで買ってから中へ入って行く。100 円の商品しか買って貰えないかも知れない（だから本気でおこなわないと）。100 円の商品をコミュニティーツールとして、いかにお店の商品を買って頂くか。60 年前の商店街はイベント＝販促事業が設けられていた。でも今は違う、この事業は 1 軒 1 軒のお店の前が会場で、役員まかせではないというお話でした。

100 円商店街の 3 ヶ条として 一、100 円商品は外に陳列すべし、一、外でお客様と会話すべし、一、100 円商品の精算は、店内ですべしと話され、一皿 500



円のお好み焼きを 100 円にするのではなく、5等分すれば良いよと。この事業は無理をすると続けられない。まずお客さんに楽しんで貰う、その後に自分も楽しむ。

齋藤さんのお話では「がんばる商店街 77 選」に選ばれた事業で補助金がまったくゼロでおこなっている事業は新庄市さんの 100 円商店街事業だけだとおっしゃっていました。

続いて、100 円商店街のすすめ～実際の現場から学ぶ魅力と極意～をテーマに生駒駅前商店街連合会の稲森文吉会長からお話をお聞きしました。



稲森会長が齋藤さんと出会われたのは2年前の6月19日とのことで、稲森会長が2007年5月号の商業界、他に日経MJに掲載されていた100円商店街の記事をご覧になって関心を持たれ、中小機構さんのアドバイザー派遣制度を活用され齋藤さんを生駒に講師として招聘されたとのこと。それで関西で一番乗りをと2008年10月に「第1回生駒駅前100円商店街」を開催。当日は目を疑うかの人・人・人、途切れず商店街に人が、初めての開催で店主も心の中では「ほんまに人がくるんかいな？」と言いつせ思っていた方が殆どでしたとのことでした。

開催1週間後の反省会にて…「成功」「またやりたい」からスタートして先頃2010年10月23日(土)に「第9回生駒駅前100円商店街」を開催、今回も大盛況であったとお話をお聞きしました。

本年、大阪商工会議所では「商店街・賑わいプロジェクト」事業「100円商店街」の推進・普及に力を入れられ、16地区36商店街がすでに100円商店街を取り入れられておられるとのこと。

引き続き100円商店街を実際にやってみて…というテーマで関西でのバルの仕掛け役である伊丹市都市企画室主幹の綾野昌幸氏よりのお話をお伺いしました。



本年1月29日に大阪商工会議所主催のフォーラムに参加され、伊丹に帰って伊丹中央サンロード商店街に100円商店街をやりませんかと投げ掛けられ2010年9月25日に開催されたそうです。フォーラムに参加されるまでは、綾野主幹もどうも100円商店街ってうさんくさいと思っておられたそうです。しかしフォーラムに参加され伊丹でもと考えが変わられたとのことでした。実際100円商店街を伊丹で開催されお客さん側からのアンケートでは83.7%が良かった、また100円商品以外の商品を買われた方は68.2%で、お店側も良かったということでした。

最後に、本日の研究会で講演予定のなかった箕面商工会議所の秋田英幸氏より、まだ最近の11月6日・7日実施された100円商店街についてお話を伺いました。当初は箕面市全域でおこなう予定だったそうですが、3地域13商店街、167店舗が参加されたとのこと。事前に延べ6回、齋藤さんに来て頂き勉強会をおこなわれたとのことでした。秋田さんの事務局でも先にお話された綾野さんのように、お客さんに来て頂けるかどうか心配をされていましたが、蓋を開けてみると大盛況であったとのことでした。ある商店街では40年振りに賑わったとおっしゃっていたそうです。良く回遊性を高めなさいと言われますが、100円商店街をおこなってみて、こういうのが回遊性かと勉強になられたそうです。お客さんはすぐには帰られずに2時間・3時間掛けて各お店を回られておられたそうです。この事業をおこなって店主さんからは、やって良かったですわ～と言う声を頂いて、秋田さんも本当にやって良かったと思われたとのことでした。

次回の第8回中心市街地活性化ネットワーク研究会は、年が過ぎて来年、和歌山県田辺市において開催されますとのことでした。

奈良三条通り工房「なら青丹彩」 チャレンジショップ オープン

奈良もちいどのセンター街内の「夢CUBE」に次いで、先月11月15日に、新たに大型チャレンジショップ、奈良三条通り工房「なら青丹彩」が三条通ショッピングモール内（奈良市下三条町2番1）にオープンしました。

事業主体並びに運営会社は、奈良市二条町の平井不動産株式会社（平井信成代表）で、この事業は奈良市中心市街地活性化基本計画の実地体験型起業家育成事業の一環として、NTT・奈良県・奈良市・県中小企業支援センター・商店街振興組合三条通ショッピングモール・連携企業の協力の下に実施されました。

三条通りは現在、奈良市によりシンボルロードとしての拡幅事業に取り組み、またJR奈良駅前広場整備事業など奈良市中心市街地活性化基本計画内事業として大阪・京都方面からの観光客を受入れる奈良の玄関口としての整備が鋭意進められており、もう一方の玄関口、近鉄奈良駅とJR奈良駅を結ぶ動線の中程にこの奈良三条通り工房「なら青丹彩」チャレンジショップがオープンすることは大いに中心市街地の賑わいに繋がり新たな観光スポットとなると共に、これからの奈良を背負って立つ起業家がどんどん育って行ってくれることを大いに期待しています。

施設の概要としては、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階建て、延床面積が約816.90㎡、店舗面積は約480.20㎡となっており、店舗構成としては店舗18区画、事務所4区画、イベントスペース1区画となっていて施設全体は落ち着いた雰囲気を演出されるため奈良の町家をイメージしたデザインを取り入れられておられます。

今回のオープン時には入居が決定した店舗は18区画、事務所3区画には奈良を代表する個性溢れる様々な飲食店舗や物販店舗、並びに体験型店舗で構成されています。



他の特徴としては、グループウェアシステムの導入、RFリーダーライター（ポイントシステム）の導入、来客用にインターネットフリースポット「FON」の導入なども取り入れておられます。

また海外からの方への利便性を図るため、施設には「日本語・英語・中国語・韓国語」で案内表示をおこなっておられました。



お問い合わせは：

平井不動産株式会社

TEL 0742-35-2266

FAX 0742-35-2890

Eメール：katsuyoh@hiraifudousan.jp

ホームページ：http://www.hiraifudousan.jp